脳神経外科

診療内容・専門分野

当科では脳卒中、頭部外傷の急性期治療を主に行っています。

近年の高齢化に対応し、より侵襲の少ないカテーテルでの脳血管内治療、神経内視鏡での手術を中心にしています。

特に急性期脳卒中の診療には力を入れており、神経内科、総合診療科、救命救急部、リハビリテーション部等と協力して、総合的に早期治療を行っています。

脳梗塞に対しては、発症後 4.5 時間以内の場合、積極的に rt-PA(アルテプラーゼ)静注療法を行っています。改善が得られない場合、血管内治療による機械的血栓回収療法を行うことができます。

くも膜下出血に対しては、血管内治療による脳動脈瘤コイル塞栓術、脳内出血に対しては神経内視鏡による脳内血腫除去術を行っており、高齢者に対しても根治的な治療ができるようになっています。

また、治療可能な認知症の一つとして特発性正常圧水頭症があります。当科では腰椎穿刺により髄液を抜くタップテストを行い、効果判定後、最新の MRI 対応のシャントバルブを用いた脳室腹腔シャント手術を行っています。

ご紹介いただくにあたって

急性期脳卒中では早期診断・治療が重要です。情報が不十分でも結構ですので、遠慮無くご連絡をお願いします。

また、最近頸動脈狭窄症が増えてきています。頸動脈狭窄症に対するステント留置術も積極的に行っています。

未破裂脳動脈瘤、頸動脈狭窄症、特発性正常圧水頭症などに対しては、検査から積極的に行っていますので、ご遠慮なくご紹介を頂けますようお願い申し上げます。